

例会日：毎週木曜日 12 時 30 分
 例会場：岐阜県郡上市八幡町小野 67(八幡建設 2F)
 TEL (0575) 67-0314 FAX (0575) 67-0005
 E-mail:rc-8man@abeam.ocn.ne.jp
 URL:http://gujohachiman-rc.com/

会 長 : 水上成樹
 副 会 長 : 平岩憲政
 幹 事 : 野田三津雄
 公共イメージ : 西川 昇
 会報担当者 : 大川達也

2022 年度国際ロータリー会長：ジェニファー・ジョーンズ(ウイザー・ローズランド・ロータリークラブ・カナダ)

2022 年度国際ロータリーテーマ：IMAZINE ROTARY(想像してください。私たちがベストを尽くせる世界を)

<本日のプログラム>

第 2805 回 令和 5 年 2 月 2 日 第 1 木曜日
 会員卓話 山下友幸会員
 村土時男会員

<次回の予定>

第 2805 回 令和 5 年 2 月 9 日 第 2 木曜日
 外来卓話
 郡上市消防本部警防指令課 河合 晃様

<前回の記録>

第 2804 回 令和 5 年 1 月 26 日 木曜日
 会員卓話 竹内巧治会員

司 会 進 行 田中義久副 SAA
点 鐘 水上成樹会長
ソ ン グ それでこそロータリー

来 客 紹 介 村井裕孝会員
郡華園 徐飛 様



城南町で中華料理店の郡華園をやっています。郡華園は、小さなお子さんからお年寄りまで行きやすいお店です。ランチ、定食、セットメニュー、コース料理、食べ飲み放題、テイクアウトなど、シーンに合わせてご利用できます。会員さんの飲み会や、友達や家族の集まりに、是非ご利用下さい。これからもメニューを充実させ、喜んで頂けるお店作りに励みます。宜しくお願いします。

出 席 報 告 長尾信幸出席担当責任者

会員数	出席	補正	出席合計	出席率
34 名	23 名	8 名	31 名	91.2%

ニ コ ボ ヲ ク 村土時男クラブ奉仕委員

・徐飛様、ようこそ。来て頂きありがとうございます。竹内さん、卓話楽しみにしています。

水上成樹

・郡華園 徐飛様、ようこそ。

松森 薫

- ・今日は私の卓話です。皆さんに興味を持って頂ければ幸いです。 竹内巧治
- ・竹内先生、今日はありがとうございます。宜しくお願いします。 松森 薫
- ・本日の竹内会員の卓話楽しみにしています。
 平岩憲政・岩出明喜・岩尾 誠・河合 修
 河合和也・前田伊三夫・松本英樹・三原慎也
 村井裕孝・村土時男・長尾信幸・永瀬和郎
 西川 昇・西村 肇・信田清久・大川達也
 酒井智義・坂本 仁・田中義久・山川直保

幹 事 報 告 前田伊三夫副幹事

・ガバナーエレクト事務所より「クラブ一覧表」確認のお願い

<拝受>

・桑名北 RC より週報

委 員 会 報 告

村井裕孝親睦委員

・郡上青年会議所との交流会のお知らせ

会 長 の 時 間 水上成樹会長



皆さん、こんにちは。徐飛さん、ようこそ。お越し頂き、ありがとうございます。

最近、電気料金が上がっていて、皆さんもかなり気にしてみえるのではないかと思います。それについて中部電力の料金に関してはありますが、どのように決められているのかについてお話しします。従量電灯というのがあるのですが、これは一般家庭の電気のことです。ま

ず、基本料金というのが決まっています、家庭用で使われる電力の量で決まっています。例えば10アンペアの契約をされた場合は、大体286円の基本料金です。60アンペアの契約をすれば、単純に掛ける6で、286×6が基本料金となります。それに加えて、電力料金の使用料金がかかります。これが不思議なもので、少ない電力料金を使えば金額が低いです。最初は17円から始まります。だんだん使われますと、マックスで27円の金額になります。ほとんどの家庭で27円の電気料金を払っていると思いますが、その他に燃料調整費というのがあります。この燃料調整費が高くなると電気料金がアップします。このところの11、12月で電気料金が上がっているのは、これのせいです。ロシアとウクライナの戦争で燃料が入り難くなっているという現状があって、11、12月はとんでもなく上がっています。この電気料金の値上がりやを打破するためには、原子力発電所を稼働するしかないと言われてますが、色々賛否両論あるので、なかなか難しいところだと思います。簡単ですが、電気料金についてのお話でした。ありがとうございました。

会員卓話 竹内巧治会員



今日は、19世紀の愛知県出身のある日本人のことを話します。日本から船で南下して漂流し、アメリカにたどり着いて、それから色々な数奇な運命を

辿った音吉という人です。私がこの人を知ったのは、音吉伝という本で、これを書いた篠田泰之さんという方が関市出身で、私の家の前の人なんです。仕事を定年後、音吉を知って資料を集めて、3年前に自費出版で本を出しました。600ページという大変な大著で、素人ですが定年してから勉強して、これだけの本を出されたのは素晴らしいなと思っています。その方から音吉伝の本を一冊買いました。そうしたら漫画本も出ていて、それを頂いて、それで音吉について勉強しました。

音吉さんという人は、1818年に生まれました。この19世紀の前半というのは、日本に外国から色々な船がやってきたりして、そろそろ開国も近いのかなという時期でした。そんな頃に生まれた人です。この人は、尾州小野浦村、今の愛知県知多郡美浜町に生まれました。この音吉さんは、1832年の10月に三重県の鳥羽から、米や陶器を積んで江戸に向かいました。当時14歳でしたが、途中、遠州灘の辺りで嵐にあって、そのまま漂流してしまいました。それから、なんと1年2ヶ月、14ヶ月間漂流したということです。太平洋を漂流してようやく14ヶ月後に、アメリカの西海岸の北の上の方、ワシントン州辺りの海岸に漂着したと言われています。生存者は15名中3人で、あとの12

名は途中で死んでしまいました。ほとんどがビタミンC不足による壊血病でした。栄養不足とか水不足などもあったと思います。結局三人が生き残りましたが、何を食べていたかというのと、のちに音吉さんが言うには、魚も獲れたし、船の底に付いている貝とか海藻を取って食べたということです。水は海水を蒸留して飲んだそうです。それにしても大変だったと思いますが、よく14ヶ月生き抜いたと思います。普通だったら、14ヶ月も陸地も何も見えず海を彷徨っていたら、途中で生きる気力を失って死んでしまうんじゃないかと思いますが、とにかく生き抜いたその生命力すごいなと思います。音吉さん達が着いた所が、アメリカの西海岸でした。当時アメリカの西海岸には、木造船が結構漂着していたそうです。ほとんど人は乗ってなくて、ただ船の残骸が漂着していただけでした。なので、生きた人間が乗っていたなんてことは、この時大変珍しかったそうです。生きた日本人がいるということでインディアンに助けられたんですが、善意で助けた訳ではなくて、インディアンは助けた三人を奴隷としてこき使ったようです。そこにイギリスの船が来たので、三人を売り飛ばしてお金や品物を手に入れたということです。イギリスも、日本人の漂流民を、何故お金を出して買ったのかということ、日本に対する関心があったようです。イギリスもアメリカも日本と国交を開きたい、日本と貿易をしたい、もしくは日本に捕鯨基地を作りたいということで、生きた日本人がいるからお金を出して買おうということになったみたいです。そうしてイギリス人に買われた3人の日本人は、英語を勉強させられたのですが、音吉さんは非常に語学力があって、すぐに英語が上達したようです。その結果、聖書の翻訳をやったということです。聖書を翻訳するということは命の危険があるということで、日本に帰ってそれが知れたら、そのまま死罪になるという恐れもあったので、翻訳はしたけど秘密にしていたということです。この19世紀頃というのは、イギリス、フランス、アメリカなどは、日本に対して何とか国交を開きたいと考えていて、ペリーが来る以前にも何度も船で来ていました。時には武力を用いられたこともありました。オランダ船なら日本に入れるということで、イギリスがオランダの国旗を掲げて勝手に入ってきたということがありました。それで、江戸幕府が異国船打払令を発令して、とにかく西洋の船を入れさせないようにしました。そこでイギリスは、3人の日本人を人道的にという意味で日本に送り返そうとしました。モリソン号という船に彼らに乗せて、アメリカ西海岸から一旦ハワイへ行って、そこから南アメリカの南端、マゼラン海峡を通過して大西洋へ出てロンドンに着きました。ロンドンに着くと、一日だけですが上陸することができ、記録に残っている中ではイギリスに最初に上陸した日本人だと言わ

れています。ロンドンから今度はマカオへ向かいました。マカオでは、他にも日本人の漂流民がいたので、4人を加えて7人で日本に向かいました。まず、琉球に着いてしばらく滞在した後、浦賀へ行きましたが、そこでいきなり砲撃をされてしまいました。そのため上陸も交渉も出来ず、今度は薩摩へ行きました。当時、薩摩には開国派の島津斉彬という人がいたので、薩摩なら話を聞いてもらえるかもしれないと思ったのですが、薩摩でも結局砲撃されてしまい、再びマカオへ戻りました。ところが、日本から見ると、軍艦でもない人道的な船を攻撃して返したということで批判する日本人もいて、それがきっかけとなって異国船打払令は廃止となりました。音吉さん達7人は、日本を目の前にして帰れなかったので、泣きながらマカオへ戻ったということです。マカオへ戻ると宣教師達と会って、また英語を勉強しました。今度はまたアメリカへ行って、アメリカ人を相手に日本についての講演をしたと言われています。その頃には、音吉さんの英語は非常に上達していました。彼の人生を見ると、2回くらい世界1周をしています。現代人でも世界1周をしている人はめったにいないことを考えると、19世紀の帆船の時代に世界1周を2回していて、しかも音吉さんは日本語、英語ができて、フランス人にも会っているのでフランス語もできて、中国語も話せたので、大変な国際人だったと思います。その後、音吉さんは上海へ行ってイギリスの貿易会社へ勤め、そこで支配人まで出世しました。次に音吉さんが日本に来たのが1849年で、イギリスの軍艦が日本に来た時のイギリス側の通訳でした。ところが、その時は日本人だとは名乗りませんでした。場合によっては罪を受けるかもしれないということで、中国人だということにしたそうです。

次に1853年、ペリーが日本へ来る年ですが、ペリーはアメリカの大統領の国書を持って、作戦を色々練って日本に来ました。人道的な目的で行ってもダメ、ただ軍艦一層一隻で行ってもダメ。じゃあもう国書を持って船隊で行こうということで、4隻の船隊でやって来ました。その後日本と条約を結びましたが、その時音吉さんは一緒に日本に来ませんでした。ペリーは音吉さんを連れて行こうとしましたが、音吉さんは、自分はイギリスの会社で働いているからと断ったそうです。

音吉さんは、長い間上海とマカオで働いていましたが、1854年にイギリスの船に乗って長崎に来ました。その時には堂々と日本人であることを名乗ったそうですが、既にその頃は上海で仕事が上手くいっていたので、日本に戻ることはありませんでした。結局その後、音吉さんは1864年にイギリスに帰化してイギリス人になりました。そして、1867年にシンガポールで亡くなりました。音吉さんは、3回ほど結婚して子供もいました。その子供が、後に明治になってから日本に戻ってきたと

いうことです。私たちは音吉さんという人を知りませんが、美浜へ行くとお墓や顕彰碑などが残っているようです。今まで全然知らなかった音吉という人が世の中にはいて、有名ではないけれども、色々な作家がこの人のことを調べて小説にしたりしようとしたようですが、なかなか資料が無いようです。いろんな場面で音吉の名前が出てくるのですが、資料として残っていないようです。14歳で漂流して外国へ行って、国際人として生き抜いた人がいたことは、凄く立派だなと思います。今の日本人は、中学、高校と6年間英語を勉強してもらくに話せませんが、やはり必要があれば話せるようになるし、国際的な知識も身に付くんだなということを感じました。以上です。

ありがとうございました。